

(様式第1号)

令和2年度 第5回 芦屋市教育振興基本計画策定委員会  
会議録

日時	令和3年2月4日(木)
会場	書面開催
出席者	委員長 浅野 良一 副委員長 今西 幸蔵 委員 丹下 秀夫 委員 極楽地 愛子 委員 伊東 典子 委員 木村 奈々 委員 北尾 文孝 委員 山田 耕治 委員 高橋 弘美 委員 西馬 由華 委員 西野 悦子 委員 中島 幸夫 委員 城戸 知子 委員 井岡 祥一 委員 中西 勉 委員 岸田 太  事務局 企画部長 田中 徹 企画部政策推進課長 大上 勉 管理部長 本間 慶一 管理部管理課長 山川 範 管理部主幹 長良 晶子 管理部管理課管理係長 下條 純 管理部管理課課員 根来 泰子 管理部教職員課長 富田 泰起 管理部主幹 野村 大祐 学校教育部学校教育課長 木下 新吾 学校教育部主幹 田淵 雅樹 学校教育部主幹 澁谷 倫子 学校教育部打出教育センター所長 横田 薫 社会教育部生涯学習課長 長岡 良徳 社会教育部スポーツ推進課長 木野 隆 社会教育部青少年育成課長兼青少年愛護センター所長 近田 真 社会教育部市民センター長 高田 浩志 社会教育部図書館長 丸尾 恵子
事務局	企画部政策推進課, 管理部管理課, 学校教育部学校教育課, 社会教育部生涯学習課

## 1 協議

- (1) パブリックコメントの結果とその対応について
- (2) 計画原案について

## 2 送付資料

- (1) 第3期教育振興基本計画原案に対するパブリックコメントとその対応（資料1）
- (2) 第3期芦屋市教育振興基本計画原案について（資料2）

## 3 議 事

送付資料について、各委員の意見を以下のとおりまとめています。

氏 名	意見内容
浅野 良一	資料拝見しました。丁寧な対応だと思いました。特段の意見や加筆修正はありません。
今西 幸蔵	案を拝見しました。前回の会議での指摘箇所を修正していただきしており、私はこれで結構です。芦屋市にふさわしいものができたと嬉しく思っております。
丹下 秀夫	特に意見はありません。
極楽地 愛子	寄せられたご意見は、それぞれ切実な強い思いを感じました。その思いにお答えされようとする姿勢、難しさもよく分かりました。ご意見を拝見していると、市立幼稚園や保育所、市立小中学校、学校給食などの教育保育環境や、学校園・家庭・地域の連携など、国に準ずる以上の芦屋ならではの質の高い環境を高く評価していらっしゃるがゆえのご意見だと感じました。会議に出席すると市の取り組みをより身近に感じるのですが、やはりその取り組みの背景や経緯などは届きづらく、不安なお気持ちや疑問を持たれている方もいらっしゃると思います。ソフト・ハード面ともに今すぐに実現が難しい課題も多くありますが、市の取り組みや施策が、より広くよりポジティブに届くことを願っています。芦屋は市民と行政との近しい距離感が特長でもあると思います。お互いに思いを寄せ合えるよう、私たち市民も行政の皆様も「みんなが当事者」として、引き続きエールを送りあいながら、よりよい教育のまち芦屋を築いていくことができればと思います。

伊東 典子	<p>意見としましては、①幼稚園の3年保育について。今回の岩園幼稚園での募集人数を大幅に超えた申し込みがあったことについて考慮されていない返答だと思いました。②学校給食のオーガニック食材について。栄養教諭の先生に以前オーガニック食材についてお伺いしたところ、量の確保が出来るときに使っているとお聞きしたことがあります。使えるものは使っている旨も返答されてはいかがかと思えます。他市において、給食でオーガニック食材を使うことで、慣行農法のみであった農家さんが有機農法に変わられたりして、オーガニック食材が増えている、という例も聞いたことがあります。映画や本まで作っている芦屋の給食ですから、ぜひ推進していただければと思います。以上2点の返答に関して意見を記入させていただきました。遅くなりまして申し訳ありません。</p> <p>基本計画の原案に関しましては、修正や追記があり、理解しやすいように変更していただいていると感じました。</p>
木村 奈々	特に意見はありません。
北尾 文孝	特に意見はありません。
山田 耕治	特に意見はありません。
高橋 弘美	特に意見はありません。
西馬 由華	<p>P22 第2期の計画の振り返り振り返りとして主な実施状況の整理について前回気がついていなかったのですが、・の3つめ「チューター（学習指導員）…算数・数学の指導の指導を行いました。」とありますが、「チューター（学習指導員）…算数・数学の指導を行い、児童・生徒の学習理解を深めることができました。」としてもよいかと思えます。理由として、チューターによるテスト結果（浜風小学校）を昨年度までに数年見ましたが、年度初めより年度終わりは点数が伸びていたのも、もし他の学校も平均して点数が伸びているのであれば、チューターによる成果につながる文言にしてはどうかと思ったからです。</p> <p>P29 3 芦屋の教育がめざす子ども像2 理解していること・理解できることを実践し、学びを深めることができる子ども「学びを深める子ども」と短くしてもよいかとおもいます。理由として、1つ目「深める子ども」は深めている時点で「深めることができている子ども」となると思います。2つ目は、「深めることができる子ども」より「深める子ども」の方が言いやすいと個人的には思うからです。</p>
西野 悦子	<p>62ページの子どもの教室に*が付いていますが、用語解説には載っていないように思います。(解説の対象になる用語に細い下線があると調べやすいと思いました。)</p> <p>75ページの育てたい子どもの姿4 自ら本を手に取り、本が好きな子どもの学校園の役割の4番目の○に～読み聞かせの取組を大切にする。とありますが、同時に五感を使って理解を深める意味で音読(朗読)も大切だと思います。国語のカリキュラムとして明記されているのかもしれませんが、ここにも読み聞かせと音読の取組を大切にする。と明記していただきたいです。(これは家庭と学校の両方の役割だとはおもっています。)英語教育におけるスピーチコンテストの前段階にレシテーションコンテストがあるように、日本語においても同様に音読(朗読・暗唱)は大切だと思います。</p> <p>83ページの学校運営協議会＝文部科学省のいう「コミュニティ・スクール」と明記したほうがよいのでは?と思います。85ページのコミュニティ・スクールから調べた人は理解出来ますが、83ページの学校運営協議会を調べた人にはこれが文科省のいう「コミュニティ・スクール」とい</p>

	<p>うことはわかりません。</p> <p>87ページのトライやるウィークについて、体験活動を行っているもの。に続けてと同時に地域が中学生に目を向け・見守る機運を高めることも目的としている。というような意義も書き加えることはできないでしょうか？</p>
中島 幸夫	<p>第3期芦屋市教育委員会教育振興基本計画における今後5年間に取り組む施策の重点目標1～5の5つの目標は、まさに人間形成に不可欠な「生きる力の育成」「個性を育む」「命の尊厳」「人権尊重」「地域社会との連携」「生涯学習の機会の充実」そして「読書環境の充実」が網羅された設計で、「こどもの真の成長に盛夏あれ！」と祈りたくなります。芦屋市の教育現場での尽力に期待大です。個別的な指摘がなされている「市民のパブリックコメント」は、この基本施策に立脚した現場での対応に期待します。</p>
城戸 知子	<p>市民からの意見に対し、大変わかりやすく丁寧に回答いただきありがとうございます。日々子育てをする中で”こーしてほしい”等思うことがあり、パブリックコメントと同意見もありましたが、今回、市の回答を伺い、対応が難しい理由が理解できました。ただ、⑥や⑩のような2つ以上の意見に対し、1つの事にのみ回答してる（⑥大きい子も遊べるところが松浜公園の一部につくってほしい）等、回答しきれていないように感じました。パブリックコメントをした人の立場だったら、市の考え方がきちんとわかれば今後の考え方も変わってきますし、1つ1つていねいに回答いただけているので、次もパブリックコメントが集まりやすくなると思います。</p>
井岡 祥一	<p>特に意見はありません。</p>
中西 勉	<p>特に意見はありません。</p>
岸田 太	<p>特に意見はありません。</p>